

令和3年第1回江別市総合教育会議

1 日時 令和3年7月16日(金)午後1時15分～午後2時30分

2 場所 教育庁舎 大会議室

3 出席者

(構成員) 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 黒川 淳司
委員 支部 英孝
委員 橋本 幸子
委員 林 大輔
委員 須田 壽美江

(学校教育支援室)

教育部学校教育支援室長 佐藤 学
教育部学校教育支援室学校教育課長 川口 直也
教育部学校教育支援室教育支援課長 清水 さおり
教育部学校教育支援室学校教育課学校教育係主査 天明屋 聡

(事務局)

教育部長 西田 昌平
教育部次長 千葉 誠
教育部総務課長 山崎 浩克
教育部総務課総務係長 嶋中 健一
教育部総務課総務係主査 工藤 雅和

4 議題

- (1) 令和3年度教育施策について
- (2) ICTを活用した授業と今後の展開について
- (3) 学校における新型コロナウイルス感染症対策について

会 議 録

西田教育部長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、令和3年第1回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>会議に先立ちまして、会議の主宰者であります、市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
三好市長	<p>今年第1回目の総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。</p> <p>まず、先の第2回市議会定例会において、須田委員が市議会にて任命同意をいただき、令和3年6月30日に教育委員会委員として再任され、このたび就任していただきました。任期は、令和7年6月29日までの4年間でございます。引き続きよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>須田委員が再任となりまして、メンバーは以前と同じでございますが、総合教育会議について少しお話させていただきます。</p> <p>平成23年に滋賀県大津市で発生しました、いじめの事例をきっかけといたしまして、市長と教育委員が教育行政についての協議・調整をする合議体として地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に基づき設けられたもので、江別市では平成27年度に設置し、今年で7年目を迎えます。</p> <p>教育を取り巻く環境は、様々な課題がございます。</p> <p>今日の議題にもありますが、新型コロナウイルス感染防止の関連もでございます。</p> <p>さらにはICT教育、GIGAスクール構想への対応の問題や今後の大きな問題といたしましては、35人学級への移行の問題もでございます。その指導体制もこれから研究していかなければなりません。</p> <p>今年の1月でございますが、中央教育審議会でお出された答申の中で、義務教育期間の9年間を見通した義務教育の在り方、特に小学校の高学年から教科担任制の導入という動きも出てきております。</p> <p>さらには、教員の方から見ますと、働き方改革や補習等における指導員の派遣の問題など様々な課題があります。国や北海道がどのような対応をするのか、それに伴い市町村がどのように対応していくかといったことが、これからの課題ではないかと思っております。この総合教育会議を通じて市長と教育委員会が共通認識を持ち、様々な課題に対応したいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げたいと思っております。</p> <p>ところで、先般、千葉県八街市の通学路で5人の子供が死傷するという痛ましい事故がございました。</p> <p>通学路の点検は、毎年、全国で話題となっておりますが、江別市においては江別地区、野幌地区、大麻地区の3地区を毎年1地区ずつに点検していると聞いております。子供の通学路における安全というの、市民の関心が高くなってきていると思っておりますので、こうしたことにつきましても、十分に配慮していかなければならないと考えております。</p> <p>この件は、今日の議題ではございませんが、本日の会議の最後に、教育委員会事務局から通学路に関連した点検の状況についてお話いただければと思っております。</p> <p>次に、新型コロナウイルス関係ですが、江別市は、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置地域となっておりますが、7月11日に解除となったばかりでございます。実は、北海道の保健福祉部長が江別市に来庁して、現在の感染状況について2点、話がありました。一つ目は、若年層と呼ばれる20歳から30歳台の感染拡大が続いていること。二つ目は、今回の感染の特色は、デルタ株の感染力が極めて高いということで、今、私たちの目の前にございますが、パーテーションやマスクをしている場合、濃厚接触者から外されてはいたしましたが、デルタ株が出てきてから、このような感染対策を取っていた場合でも感染する事例があったため、ある程度の距離を取らなければ、全て濃厚接触者としているということでございました。今までは、感染の心配がないと思われていた対策を取った場合でも感染しているということから、今までの感染対策の概念を、少し変えるような非常に厳し目の対応をしなければ、感染防止はできないのではという話をしておりました。</p> <p>デルタ株について、道内はまだ少ない状況でございますが、今回、マラソンや競歩の無観客を提案したのは、道外から応援にいられて、新型コロナウイルスのまん延を防止するために無観客にしなければならないということでの対応だったそうです。そのような厳し</p>

	<p>いお話をされていらっしゃいましたので、お知らせしたいと思います。</p> <p>本日、議題として3件、用意しております。</p> <p>委員の皆様には、気が付いた点など自由に活発なご意見をお願い申し上げたいと思います。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
西田教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これ以降の進行につきましては、市長にお願いしたいと思います。</p>
三好市長	<p>それでは、議事を進めてまいります。</p> <p>本日の議題は、1件目が令和3年度教育施策について、2件目がICTを活用した授業と今後の展開について、そして最後に学校における新型コロナウイルス感染症対策についての3件でございます。</p> <p>それでは、次第に基づき、議題の(1)令和3年度教育施策についてを議題といたします。</p> <p>資料も用意されておりますので、事務局から説明願います。</p>
山崎総務課長	<p>それでは、(1)令和3年度教育施策について、ご説明いたします。</p> <p>お手元の資料1「子どもが輝くえべつの小中学校」をご覧ください。このリーフレットには、主な教育施策が掲載されておりますが、この中から幾つかピックアップして説明させていただきます。</p> <p>初めに、1ページ目の上段、「ICT機器を活用した、わかりやすい授業！」であります。このあと議題(2)において詳しくご説明いたします。</p> <p>次に、リーフレットの2ページ目、上段「令和5年度までに小中一貫教育を導入！」であります。令和3年1月に策定した江別市小中一貫教育基本方針に基づき、江別市の教育をより一層充実させるため、令和5年度までに小中一貫教育を市内全校に導入します。</p> <p>今年度は、モデル校である江別第二小学校と江別第二中学校の取り組みを更に進めるとともに、全校導入に向けて、9年間を見通した指導計画の検討や、小学6年生の中学校体験登校を行うなどの準備を進めております。</p> <p>次にその下「えべつの小中学校の学力と体力の現状」であります。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により文部科学省による調査が中止となったため、ここには令和元年度の結果を掲載しております。</p> <p>今年度は、学力、体力ともに文部科学省の調査が再開されており、学力調査の結果につきましては次回の会議でご報告したいと考えております。</p> <p>リーフレットの最後のページの中段の「海外や土佐市の友達と交流！」であります。姉妹都市であるアメリカ・グレシャム市との中学生の相互交流事業、また友好都市である土佐市との小中学生の相互交流事業につきましては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。</p> <p>今年度につきましても同様の理由により中止が決定しております。</p> <p>説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま、令和3年度の教育施策についてということで、重点的に取り組む事業などについて説明を受けました。</p> <p>既に、令和3年度はスタートしておりますが、委員の皆さんからのご意見やご質問はございませんか。</p> <p>なければ、私から聞いてもいいでしょうか。</p> <p>令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査についても全国学力・学習状況調査と同様に中止になったのですか。</p>
佐藤学校教育支援室長	<p>はい、中止となりました。</p>
三好市長	<p>例えば、令和元年度の体力の結果を見ると、握力は小学校、中学校男女とも平均値の5</p>

西田教育部長	<p>0という数字を上回っていますよね。 しかし、50m走は、小学校、中学校男女とも平均以下になっているというのは、何か要因はあるのでしょうか。 このことについて、北翔大学の先生方から何か聞いていませんか。</p> <p>江別市では、北翔大学のご協力を得て走り方教室を実施しておりますが、ただいまの件について特に何か報告を受けたということは今のところありません。市長がおっしゃるとおり、江別市の子供たちの体力面での弱いところ、強いところがありますので、強さを伸ばすの必要ですし、弱さを克服していくも大切なことだと思います。 今年度は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を行っておりますので、その結果等を踏まえて、どのような形で体力面を伸ばしていくかを考えていきます。</p>
三好市長	<p>分かりました。 今後も専門家の方と相談していただきたいと思います。 リーフレットにも記載のあるICTを活用した授業については、後ほど議論したいと思いますが、それ以外で何か確認しておきたいことはございませんか。 よろしいですか。(了) 以上で、本件につきましては終結いたします。 次に(2)のICTを活用した授業と今後の展開についてを議題といたします。 机上に資料が配られているようですので、事務局から説明をお願いいたします。</p>
佐藤学校教育支援室長	<p>ICTを活用した授業と今後の展開について、ご説明いたします。 資料2をご覧ください。 江別市のGIGAスクール構想は、本年3月まで各小中学校にGIGA専用回線の敷設、指導者用タブレット端末、7学年分の学習者用タブレット端末の整備を終えております。 4月、5月の運用準備期間中には、教員へのサポートとして、導入時から継続して配置したGIGAスクールサポーターに加え、ヘルプデスクの運用を開始しております。 さらには、教員向けのオンライン研修の実施、主要5教科の指導者用デジタル教科書の全校導入を経て、6月に本格運用を開始したところです。 本格運用後のタブレット端末や多機能大型ディスプレイの活用については、別冊でお配りしておりますGIGAスクール江別市活用事例集をご覧ください。 時間の関係で、学校ごとの説明は割愛させていただきますが、小学校ではタブレット端末の画面をタッチするなど操作に慣れるところから、中学校においては科目ごとに様々な機能、ソフトを使った授業が既に展開されているところです。 こうした活用事例につきましては、この総合教育会議の中で子供たちが実際に使っている姿を学校訪問し、視察することも検討いたしました。各校では感染症対策として保護者の授業参観等も制限を設け、実施している状況であることから、今回、視察に代えて映像を用意しましたので、ご覧いただきたいと思います。 それでは、前方の多機能大型ディスプレイをご覧いただきたいと思います。 江別市で導入しましたタブレット端末は指導者用、学習者用それぞれ記載の台数を導入しております。 多機能大型ディスプレイは、今ご覧のディスプレイを全校全クラスに導入しております。 次にデジタル教科書については、5月までに記載の主要5教科に加え、教員からのニーズが高かった地図も加え、小中学校全校に整備し、既に授業での活用がされております。 ここで、デジタル教科書について説明いたします。 デジタル教科書はご覧のとおり、紙ベースの教科書を映像化したものに様々な機能を付加されたものです。今回は、中学校1年生の数学を資料として用意しておりますので、機能の一部をご覧いただきたいと思います。 デジタル教科書は、ペン機能を使って自由に書き込んだり、丸を書いてみたり、強調をしたりできる書き込み機能がございます。そして、今、表示しているのは、円柱の図形でございますが、こうした図形の展開の様子を動画で見せることもできます。また、教科書</p>

	<p>では、ところどころに設問がございますが、設問の回答を表示することもできます。</p> <p>さらには、紙ベースの教科書では図形も一方向でしか見ることができませんが、デジタル教科書では、様々な角度や視点から見ることができます。子供たちにとってこのような機能は、とても分かりやすいと学校現場から話を聞いております。</p> <p>デジタル教科書ではこういった機能に加え、例えば理科においては植物の成長記録の動画を見ることができたり、国語や英語においては音声機能などが備えられております。</p> <p>次に、幾つかの学校の活用事例をご覧ください。</p> <p>初めに、江別第一小学校5年生の図工の授業です。</p> <p>こちらの映像は、アニメーションを作るために自分で描いたり、切り取ったりした題材を少しずつ動かしながら、タブレット端末のカメラ機能を使って、連続写真を撮影している様子です。</p> <p>小学生でもカメラ機能の操作は、日頃から慣れているようで次々と撮影している様子が見えられます。</p> <p>次は、先ほど撮影した写真を連続で映し、アニメーションとして発表している様子をご覧ください。若干見づらいですが、写真の展開は、子供たちが自分の席でタブレット端末を操作し、多機能大型ディスプレイに映し出しています。先生のスタートの合図を受け、発表する児童が実行していますが、実行ボタンを連続で押しすぎたことでやり直しとなり、2回目でうまく映すことができた様子です。こうした創作活動は、動く作品を学校で作るといふ、これまでにない授業と言えるかと思えます。</p> <p>次に、いずみ野小学校4年生の算数の授業です。</p> <p>こちらは動画ではございませんが、この画面のとおり、子供たちが自身のタブレット端末に答えを書き、23人全員の答えを多機能大型ディスプレイに表示している場面です。</p> <p>タブレット端末に導入した、スカイメニュークラウドというソフトの機能を活用したもので、算数の計算問題の答えを、クラスメイト全員で共有し、様々な考え方を学ぶことができる、いわゆる比べ学習を実現しています。</p> <p>次に、中央中学校3年生の総合学習です。</p> <p>中央中学校3年生は、今週の火曜日から2泊3日で函館、ニセコ方面への修学旅行に行きましたが、生徒たちは班ごとに事前に散策ルート、移動方向などタブレット端末を使って調べている様子です。</p> <p>中学生では、キーボード入力もスムーズに行えています。</p> <p>最後は、同じく中央中学校1年生の英語です。</p> <p>デジタル教科書を活用した英語をご覧ください。デジタル教科書には、先ほどご紹介しました画像的な付加機能に加え音声機能も充実しており、英語においては、ネイティブの発音を聴き、子供たちが復唱するなど、リスニングやヒアリングの学習に役立てられています。</p> <p>ICTを活用した授業と今後の展開についての説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま、ICTを活用した授業と今後の展開についてということで事務局からの説明のほか、子供たちの様子を資料や映像で見させていただきました。</p> <p>この6月からICT機器、特にタブレット端末を使用した授業が江別市内の小中学校でも本格的に始まりました。</p> <p>そこで皆様には、今、見ていただいた実際の子供たちが勉強している様子を見て、思ったことや感じられたこと、期待するところなど、あらゆる側面から意見交換を行いたいと思います。</p> <p>皆様いかがでしょうか。</p>
黒川教育長	<p>先ほどの映像資料にデジタル教科書の写真や映像が幾つかございましたが、デジタル教科書は、教科書の出版社が作り始めて10年くらい経て、進歩していると感じます。</p> <p>出始めの頃は、数ページの一つくらい付加機能がありましたが、今は、ほとんどのページにも付加機能が付いており、子供たちにとって分かりやすくなっていると思います。</p> <p>各学校に聞きますと、デジタル教科書の活用については、先生方が、積極的に活用しているということで、大変喜んでいいるという話を聞きます。</p> <p>ただ、デジタル教科書は1学年1教科分で、金額が7万円とか8万円とかいたします。</p>

<p>三好市長</p>	<p>ですから、デジタル教科書を導入するのに、とてもお金が掛かるため、なかなか進まない市町村が多い中、江別市では5教科全部を導入していただいているので、先生方はとても喜んでおります。</p> <p>先ほど、デジタル教科書を活用した英語の発音も映像で見させていただきましたが、国語の範読もありますし、社会科でも写真をクリックすると、動画が再生することができるなど、様々な機能があって、先生方もよく使っていると聞いております。</p> <p>デジタル教科書も紙の教科書と同様、無償になってほしいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>実は、数日前に全国市長会の社会文教委員会がありまして、その委員会の中で、国に要請していく項目として、タブレット端末の更新の問題とデジタル教科書の話がありました。</p> <p>ICT教育を進める上で、必要なものを導入できていない市町村もありまして、デジタル化に伴う様々な機器や教材は道具であって、机とか椅子と同じく全て揃えて対応するのが本来であって、市町村や学校の財政力に応じて準備できるところできないところ、買えるところ買えないところがあるのは、おかしいと思います。</p> <p>文部科学省も同じ考え方で予算の獲得に努めているという話でございましたが、現実問題は、市町村ごとで整っていないのが現状です。</p> <p>共通認識としては、教科書やデジタル化に関連した教材を含めて、机や椅子と同じでなくてはならないものなので、今後対応していきますという話でした。江別市としてもモデル校でそのような対応をしていこうと思っております。</p> <p>その他、何かございますか。</p>
<p>須田教育委員</p>	<p>今のデジタル教科書のこともそうだと思いますが、先生方のスキル向上について感想を述べたいと思います。</p> <p>タブレット端末や多機能ディスプレイを使った授業の得意な先生や苦手意識を持った先生もいると思います。</p> <p>各学校で校内研修や同僚同士で教え合うことなど行われていると思いますが、教育委員会からの働き掛けによる全体的な研修会やGIGAスクールサポーターの学校巡回体制を継続してほしいことや、緊急時のトラブル対応についても、すぐに駆け付けることができる体制を整えてほしいと思います。</p> <p>新しいことを始めると、慣れるまで3年掛かるということを何かで読んだこともあり、そのような体制をできるだけ長い期間、続けていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>これは、資料2に書いております、GIGAスクールサポーターの配置とヘルプデスクのスケジュールがありますが、このサポート体制は何年間行う予定とかがあるのでしょうか。</p>
<p>佐藤学校教育支援室長</p>	<p>現時点では、4月以降にGIGAスクールサポーターとして学校巡回に市の財源を使用して2名のサポーターを派遣しておりますが、10月以降に、国の補助事業を活用してGIGAスクールサポーターを2名、拡充する方向で進めております。</p> <p>来年以降の国の補助事業が見えないところもございますが、可能な限り活用して、先生方のサポートをしていきたいと考えております。</p>
<p>三好市長</p>	<p>国は、GIGAスクールサポーター等をいつまで財政的に支援するということは決めていないと思いますが、最終的には、そのような職員を採用する際は、交付税対応でどうにかしようというところで落ち着くのではないかと考えております。</p> <p>今は、国の補助制度で対応しておりますが、恒常的な職員として必要になるとは思いますが、どの程度の規模で何人くらい分かりませんが、そのような対応になるのではないかと考えております。</p> <p>全国市長会としても、継続して安定的に供給する仕組みというのは日進月歩でどんどん</p>

	<p>新しくなっていくので、常に前に進めるよう人材の提供が必要だと言われております。したがって、一過性のものではなくて常にG I G Aスクールサポーターに頼っていかざるを得ないのではないかと考えております。</p> <p>その他、何かございますか。</p> <p>なければ、私から何点か質問させていただきます。</p> <p>江別市のタブレット端末は、キーボード一体型のタブレット端末を導入したということで間違いはないですか。</p>
佐藤学校教育支援室長	<p>一般的にタブレット端末と言うと、キーボードがないものを指すことが多いですが、江別市で導入しているものは、普段は、ノートパソコンと同じような形をしておりますが、折り畳むことでキーボードを収納し、一般的なタブレット端末としても使用できます。</p>
三好市長	<p>分かりました。</p> <p>それから、もう1点は教育長にお聞きしたいのですが、デジタル教科書を導入することに対する反発というのがありますか。</p> <p>例えば、教え方の問題で、画一的だとか独自性がなくなるのではないかなどの心配はありますか。</p>
黒川教育長	<p>教員の中では、ほとんどないと思っております。</p> <p>デジタル教科書を活用することで、子供たちの集中力が増しているのが、先生方には手に取るように分かって聞いていますので、とても良いと答える先生方が圧倒的に多いです。</p>
三好市長	<p>分かりました。</p> <p>その他、皆様からご意見、ご質問よろしいですか。</p>
黒川教育長	<p>先ほど、須田委員がお話していた先生方の格差が生じないようにしなければならないということには同感でありまして、そこが一番大事だと思っております。</p> <p>この間、教育委員会の指導主事が学校訪問した際に聞いてきたようなのですが、ある学校の研修担当の先生が、研修に役に立ちそうな書籍を購入してきたので、他の先生方にも使ってほしいと紹介したところ、既に3人の先生がその書籍を購入して使っていたということがありました。たくさんの先生方が、ICTを活用した授業をするために、知識を増やして使えるようにしたいということが感じられ、指導主事はうれしく思っていたという話をしておりました。</p> <p>また、江別市のG I G Aスクールサポーターやサポートデスクの話もありましたが、G I G Aスクールサポーターの巡回日を学校の研修日に位置付けているという学校は、事前に現状の課題について質問することを準備しておき、巡回日に質問しているとのことでした。他にも北海道のサポートデスクや、文部科学省のスタディーエックスという全国の教育委員会や学校が参考となる事例の発信や共有するサイトを用意されており、色々な機関が様々な形で応援してくれているので、各指導主事が学校を回っている範囲では、先生方は年代に関わらず、一生懸命やっていることが伝わっているとの話でした。</p> <p>あえて何か差があるとしたら、小学校の先生方の熱意がやや高く感じるくらいと話していたことと、中学校の教科専門でごく一部ではありますが、まもなく退職となる先生の腰が少しだけ重いという話があり、やはりここに格差が生じないような体制をしっかりとつくっていくことが重要だと考えております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>その他、何かございますか。</p>
支部教育委員	<p>私の方から、それぞれお配りされているG I G Aスクール江別市活用事例集を見ながら、感じていることとお話させていただきたいと思っております。</p> <p>現在、コロナ禍でございますから、私たちもG I G Aスクールの現場を見学できない状況です。配付された資料2のスケジュールからいきますと、ICTを活用した授業は、既</p>

に始まっております。まだまだ全国の先進校の取り組みのレベルまでは届いていないと思いますが、江別の子供たちは、すぐに慣れるのではないかと、資料から感じているところです。

この資料を見て思ったことですが、子供たちは、タブレット端末に慣れるため、まずは、触ってみようとしているということを感じ取れます。

まなびポケットというソフトの中にあるタイピングゲームや理科の実験を撮影することで後の振り返り学習での活用や、ICTの教材からドリルを解く練習もしています。

また、先のページでは、資料の検索や漢字の書き順を体験したり、タブレット内にあるアプリから鍵盤を表示して、ピアノの音を入力して実際に演奏を行っていることが分かります。ピアノの応用で複数の子供と連弾演奏が可能だということが資料から確認できました。

さらには、タブレット端末を活用してアンケートや試験をしたり、その結果を簡単に集計したり、他には、調べ学習に写真や動画を取り入れたりすることで、楽しみながら工夫する勉強を経験していると思います。驚きや楽しさを感じながら授業を進めているのが、大変よく分かる事例集だと思っております。

また、ページの最後の方では、中学生が俳句の授業の中で、生徒たち個々の発言内容をクラス全員で共有することで、考え方や発想の違いに生徒自身が気づき、理解し合うために活用して、とても良い授業が進められていると感じました。私は、このような授業が、他の教科でも取り入れられていくようになることを期待しております。

タブレット端末や多機能大型ディスプレイなどのハード面で体制が整いました。

三好市長からのお話ですと、これからは、その中身であるソフトを机や椅子と同じように準備しなければならないという動きがあるということで、是非、この費用についても大変だと思いますが、国へ支援を要望するなどして、予算を付けていただけるようになると良いと思います。

これらを活用することで、子供たちの学力がますます伸びたり、発展したり、考え方が進んでいくということができるといことが、GIGAスクール構想のすごいところだと思っております。

先ほどお話にもありましたが、今まで取り組んできた結果が令和元年度全国学力・学習状況調査の結果として表れてきているものと私は理解しているところであります。そして、先生たちが活用しているICT機器は、児童生徒の理解度や正解率を瞬時に把握することができて、子供たちがどこを理解して、何が苦手だったかを短時間で知ることによって、授業の進め方に生かすことができると思います。

また、ICTを活用することで、先生方の働き方改革にもつながっていくと思っておりますので、すごく期待しております。

一日も早くコロナが収束いたしまして、子供たちが授業でICTを活用している姿を皆さんで見学したいなと思っております。

三好市長

ありがとうございました。

その他、ございませんでしょうか。

よろしいですか。(了)

今ほど、ご意見、感想や今後の展開についてお話をいただきました。

実際、それぞれの先生方のパソコンに対する理解力の差があると思います。

しかも、ICT教育というのは、ソフトや機器でもいろいろなものが出てきまして、常に進歩しています。ですから、その進歩に付いていかなければならないということになると思います。

たぶん、子供たちのほうが大幅に先行するようなことも、たくさんあるのではないかと思います。そういった分野は、教育委員会として常に教える現場での先生方のサポートを、どうやっていくのかが課題だと思っております。その課題は、やはり予算や体制の問題、または人材確保の問題もありますので、総合的に対応していく必要があると考えております。

もう一つは、デジタル化が進んでいるところですが、決してアナログ的なことを否定しているものではないので、これまで紙ベースでいろいろな教育をしてきたことを、デジタル化と併せて、いかにうまく調整しながら使っていくかということが問われるのではない

<p>佐藤学校教育 支援室長</p>	<p>かと考えております。</p> <p>往々にして、アナログ的なものを否定する考え方も中にはあるとは思いますが、アナログ的なものの中にも良さがたくさんありますので、その良さをみいだしながら、デジタルの良さや併せて、それぞれの利点を生かした教育を行うかが問われます。教育委員会としてもそういったことを、是非考えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本件については、以上といたします。</p> <p>次に（３）の学校における新型コロナウイルス感染症対策についてを議題といたします。こちらにも机上に資料が配られているので、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>資料３をご覧ください。</p> <p>市内小中学校における新型コロナウイルス感染状況等についてご説明いたします。</p> <p>１の小中学校における感染件数並びに休業等の状況ですが、表に記載のとおり、昨年１月以降、市内小中学校で２３件の学級閉鎖や学年閉鎖の措置を講じております。教職員が最初の感染者として判明したものは、２３件中７件となっております。</p> <p>また、学校内での感染拡大は３件、そのうちクラスターとなった事例は中学校１件となっております。</p> <p>教育委員会では、手洗いやマスク着用など学校における基本的な感染予防対策の徹底に合わせ、風邪症状が児童生徒だけでなく家族にある場合にも、あらかじめ登校を控えていただくなど、早い段階から学校に徹底してきたところであり、こうした対応が、学校内での感染拡大を最小限に止めることにつながったと考えております。</p> <p>次に、２の休業等の月別発生件数についてですが、北海道の月別の感染者数のグラフを参考に記載しておりますのでご覧ください。</p> <p>市内小中学校の休業措置は、１１月に４件発生し、その後、月１件程度で推移してまいりました。今年５月に入り、若年層も感染しやすいと言われるデルタ株によるものと思われませんが、小中学校合わせて１３件と大きく増加しているところです。この傾向は、北海道の感染状況と同様に増減しているところであり、今後も北海道内、特に札幌圏における感染状況を、注視してまいりたいと考えております。</p> <p>次に、３の市内における感染拡大事例であります。学校関連では、５月１０日に大麻中学校、５月１９日に給食センターがいわゆるクラスターとして公表されております。</p> <p>詳細は記載のとおりですが、大麻中学校では、教員２名の感染判明後、生徒５名に感染が拡大し学年閉鎖、学級閉鎖の措置を講じるなど、学校運営に大きな影響が出ております。</p> <p>また、給食センターでは最終的に１０名の調理員等が感染し、センターが閉鎖となるなど、３週間強の期間、センター調理場が担当する１６校で給食が提供停止、若しくは一部提供のみという事態となりました。</p> <p>次に、４の教職員へのワクチン接種についてですが、先ほどの学校休業数でもありましたように、学校における感染事例２３件のうち７件に当たる、およそ３割の教職員が最初の感染者となり、休業等を余儀なくされております。</p> <p>教職員は、札幌市を中心とした市外からの通勤者も多いことから、児童生徒に比べ感染リスクが高く、学校現場においては、教職員に対する早期のワクチン接種を望む声が上がっております。</p> <p>そうした中、市から職域接種を実施する北海道情報大学に対し、小中学校や保育園、幼稚園等の職員への集団接種の要請を経て、教職員等の集団接種の実施が決定しました。記載のとおり、６月２９日から接種が開始され、９月中には希望者約７００名全員が２回目の接種を終える予定となっております。</p> <p>次に、５のその他ですが、感染拡大対策として２点挙げております。</p> <p>①児童生徒へのワクチン接種については、ワクチンを打たない児童生徒への誹謗中傷などの課題もあることから、今後、国や他市町村の動向を注視し、慎重に子供たちの接種に対処していく必要があると考えております。</p> <p>②中体連出場選手への対応についてですが、市では全道、全国の中体連大会に出場する選手、引率教員等に対し簡易キットによる抗原検査を実施し、大会から戻ってくる選手に対し、安心して学校生活、家庭生活を送れるよう支援してまいりたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
------------------------	---

三好市長	<p>事務局から（３）について説明を受けましたが、資料から分かるとおり今年５月には市内の多くの学校で学級閉鎖や学年閉鎖がありました。逆に、早期に学級閉鎖や学年閉鎖といった対応ができたことから学校でのクラスターの発生を抑えることができたということも言えると思います。しかしながら、そのクラスターの最初の感染者は先生だと思われることから、教員の皆さんの感染対策として、ワクチンによる予防が効果的であろうと認識いたしました。</p> <p>また、給食センターにつきましては、昨年２月にも給食配膳員の方の感染が確認されましたが、今回、また給食センターで感染が確認されて、子供たちや家庭の皆様にも負担が掛かってしまい誠に申し訳なかったと思います。</p> <p>学校に近い存在である給食センターでありますので、そういう意味でも予防のためのワクチン接種の対応やこれまでやっていた手指の消毒などの感染防止対策がいかに大切であるかと考えます。</p> <p>これらに関連いたしまして、ご質問やご意見等ございましたでしょうか。</p>
林教育委員	<p>学校での新型コロナウイルスの感染ですが、三好市長の言われたとおり合計で２３件ということで、結構、多い件数になったと思います。それでもクラスターについては、１件に抑えられたということで、非常に現場の先生方が神経を使って対応されていた結果かと思えます。</p> <p>私も、何回か学校に行かせてもらいましたけれども、廊下につながる扉や窓を開けて、扇風機で風を逃している学校もありましたし、定期的に窓の開閉をして、非常に気を配って換気をされていた様子を見ました。先生方が、よくやっていたという印象です。</p> <p>給食センターですけれども、皆さん感染対策に気を付けていたとは思いますが、残念ながらクラスターが発生して、給食が提供できない期間があったということでした。私も食を扱う会社に身を置く者として考えると、調理員の皆さんは、身体的距離も取っているでしょうし、頭の前から足の先まで完全防備されているでしょうから、調理している際の感染は、ほとんどないと思います。恐らく、更衣室や昼食時を含む休憩室で感染の可能性があるかと予想されますので、改めて感染対策の徹底の必要があると考えます。</p> <p>また、教職員のワクチン接種についても資料に記載がありましたが、もしかして既に決まっているのかもしれませんが、給食センターで働く方のワクチン接種も、教職員と同様に、早めにできるとよろしいかと思えます。</p> <p>最後に、中体連の選手への抗原検査も資料に記載されていましたが、中体連以外に中文連や中体連種目に登録されていない競技でも、江別市の子供たちは、たくさん全国の大会に出ていると思いますので、なかなか学校で全部、把握するのは難しいかもしれませんが、そのような子供たちも可能な限り対象にしてあげてほしいと感じました。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、林委員からの発言にありました中体連や中文連で、全道大会や全国大会に出る子供たちへの抗原検査の話や給食センターの職員へのワクチン接種の予定について決まっていたら教えていただきたいと思えます。</p>
佐藤学校教育支援室長	<p>給食センターの職員も含めたワクチン接種ですけれども、学校に配膳員として入っている職員と調理師として働いている職員については、北海道情報大学で行われている職域接種に入れていただいて、１回目は夏休み中に終わるような日程になると思われそうですが、そのような体制で進めております。</p> <p>中体連以外の活動につきましては、中体連が８月までに全ての大会が終わることから、９月以降から冬場に掛けての文化系の活動とか、小学校であれば、ドッジボールやバレーボール等の少年団単位での活動もありますので、対象となる子供たちを調べた上で、抗原検査の実施できる体制を整えていきたいと考えております。</p>
千葉教育部次長	<p>１点だけ、補足させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>給食センターのクラスターということで、１０名の感染者が確認されたわけですが、その原因については、林委員のご指摘のとおり、休憩室での昼食時にマスクを取る場面がありましたので、その点が原因の発端になったというふうに考えております。</p>

<p>三好市長</p>	<p>給食センター再開は、休憩室の感染症対策として、黙食ですとか、パーテーションやサーキュレーターを設置など感染症対策を徹底した上で再開しております。</p> <p>また、給食センターの調理員等のワクチン接種については、先ほど、佐藤学校教育支援室長からお話があったとおり、北海道情報大学のご厚意で職域接種の中で対応いただけることとなりまして、給食センターの職員も今回のクラスターで、ワクチン接種を急ぎたいという話がありましたので、早めに接種できることを非常に期待しているとのことでした。</p> <p>教職員、保育士、幼稚園教諭のワクチンを北海道情報大学にお願いした大きな理由は、市内に勤務している先生方の4割ぐらいは、市外から通勤されているとのこと、教職員のワクチンを普通に接種していこうとすると、基本は市民だけしか接種できませんので、職域接種か大学で行う接種しか選択肢がないわけです。</p> <p>そこで、クリニックを持っている北海道情報大学と協議をいたしまして、そこで対応いただくことをお願いしました。</p> <p>文部科学省も、社会貢献を伴う接種は、最優先ということでしたので、学生とエッセンシャルワーカーと呼ばれています教職員や保育士、幼稚園教諭は最優先での対応になります。こうしたこともあり、文部科学省も大学で行う接種をすぐに決定してくれたと聞いております。</p> <p>そのあと、2週間か3週間後に北海道から学校の先生の優先接種を北海道警察の職員などと一緒に行いたいという話が教育委員会に届いたということでしたが、私としては、学校単位で接種日を決めた方がいいと思っていました。学校の先生は授業を行っておりますので、学校の先生方の中で順番を決めていただいて、授業を停止することなくワクチン接種を行っていただくことが一番と考えていました。</p> <p>教育現場には、若い先生が結構いらっしゃるので、ワクチン接種に伴う副反応で休まれる先生が増えると、学校も児童生徒も困りますので、副反応を想定しながらの接種を考えるとやはり学校単位で順番を決めていただきました。</p> <p>逆に北海道の提案に乗る形で、例えば北海道からの指示で一つの学校から何人来てくださいと呼ばれ、一斉に接種されると、万が一のとき、学校のスケジュールが組めません。そこで、北海道からの提案はお断りさせていただき、あえて、北海道情報大学にお願いしたという経緯です。</p> <p>今回の教職員などのエッセンシャルワーカーにつきましては、早くから対応できていますが、ワクチンはモデルナ製ですから接種間隔が4週間空きますので、2回目の接種が全員終わるのは9月中旬になると思います。</p> <p>私も、昨日接種会場を見てきましたけれども、教職員も幼稚園教諭も順調に進んでおりますが、学生の接種希望者が半分程度だということで北海道情報大学では困ってました。夏休みに入ると、学生は帰省などいろいろな所に行きたいと思うので、夏休みの間際になると接種が増えるのではないかと、また、インターネットでは、ワクチン接種についていろいろなことが書かれており、それにかかなり影響を受けているのではないかと話しておりました。同時に、北海道情報大学としましても、もう一度、ワクチン接種のPRをしなければならぬというような話もしておりました。</p> <p>その他、ご意見等ございますか。</p>
<p>橋本教育委員</p>	<p>私自身も教職員の枠でワクチン接種を受けさせていただくことになりました。ありがとうございます。</p> <p>今、三好市長からの詳しい説明を聞きましたが、職場でも先生方とワクチン接種について話をいたしました。他市町村から通って勤務している職員も一緒に、順次、ワクチン接種の日程を決めて、受けさせていただくことがすぐに決まって、大変、感謝しております。</p> <p>小中学校の先生方は、8割くらいこの大学での接種を希望していると聞いていますが、私たちも、まず自分たちが子供たちにうつしてしまうことを一番恐れていましたので、子供たちの学びを止めないことや安全を守るために、ワクチンを優先接種できることが、今後の学校における集団感染を防止することにつながっているのかなと期待しております。</p> <p>江別市ではこれから64歳以下の方に、順次、年齢を下げて接種券を配付されていくと思いますが、まず大人たちが子供たちの安全を守るというのが責務だと思いますので、ま</p>

黒川教育長	<p>ずはワクチンの良さを認識して、希望者がスムーズに接種できる体制であってほしいと願っています。</p> <p>関連で、発言してよろしいですか。</p> <p>各学校の校長は、江別市の施策として、居住地にかかわらず市内小中学校に勤務する全教職員の早期のワクチン接種が実現できたことは非常に良いことだと話しておりました。この取り組みには三好市長がかなりのご尽力をいただけたということで、各学校の校長も本当に感謝しておりました。このような市町村は、管内には一つもありませんでしたので、教職員からも保護者からも子供たちからも安心できるという話をよく聞くと、各校長が申ししておりましたので、本当にありがたく思っております。</p> <p>それから、給食センターの件については、教育委員会として、反省すべきことは反省し、しっかりと対応していかなければならないと思っておりますし、給食の提供も止まってしまいましたので、保護者の皆様にはご迷惑をお掛けしたと思っておりますが、このことに関連して、見ていただきたい映像がありますので、映し出してもらってもいいですか。</p> <p>実は、給食の提供が止まって、親も生徒たちも困ったなと思っている中で、大麻東中学校の生徒会の生徒たちが、給食センターの職員も困っているだろう、苦勞しているだろうという思いから、給食センターの職員の人たちを励ましたいという気持ちになり、5人でも10人でもいいから書いてくれる人がいたらと、寄せ書きの紙を生徒会から生徒に配ったということでした。</p> <p>最終的には、200人くらいの生徒たちが書いてくれたそうです。それを大きな模造紙5枚に貼り付けて、給食センターに届けたところ、それを見た給食センターの職員が大変、感動して施設内の壁に掲示した写真をいただきました。</p> <p>給食センターの職員から寄せ書きをもらってから少し遅くなりましたが、ついこの間、大麻東中学校の生徒の皆さんに励ましてもらって感動しましたというお返しの寄せ書きを給食センターの職員が作り、それを大麻東中学校に届けたという報告が私のところにありました。</p> <p>大麻東中学校での日頃の生徒たちとの関わりが、このような行動につながったという話を教えていただき、市内の小中学校にも紹介したいと思っていたところだったので、ここでご報告させていただきます。</p>
三好市長	<p>この給食センター職員からの感謝の気持ちという寄せ書きは、いつ作られたものですか。</p>
黒川教育長	<p>こちらは、先週できたものと聞いております。</p> <p>給食センターの調理員さんも参加したいという話があり、業務の合間に作ったので少し遅くなってしまい、先週になったと聞いております。</p>
三好市長	<p>これは、市民の皆さんに知ってもらったらいいですよね。</p>
黒川教育長	<p>こういう発想をする子供たちの行動は、すごく素晴らしいと思いました。</p>
三好市長	<p>結局のところ、新型コロナウイルスにかかることは、本人の予防だけでは、感染防止できないこともあると思います。</p> <p>極力、皆さんで感染予防しながら活動していますけれど、接触を避けられない仕事の人ややむを得ず感染してしまうことや、予防しても予防しても感染してしまう人がいるということを知ってもらうには、やはり、こういう考え方は必要なと思います。</p>
支部教育委員	<p>とても温かい気持ちになる話ですね。</p>
三好市長	<p>普段、普通に食べていると、給食はあって当然と思ってしまうですね。</p>
橋本教育委員	<p>いつも当たり前のようにある給食が止まることで、感謝の気持ちを伝えられることはすてきなことですね。</p>

<p>三好市長</p>	<p>様々なご意見、ありがとうございました。 その他、何かございますか。 よろしいでしょうか。(了)</p> <p>(3)の学校における新型コロナウイルス感染症対策については、終結いたしますが、これからデルタ株の問題や道内の感染者の数も増えつつあるような状況でございます。これまで以上に、感染対策の徹底をしていかなければならないと思っております。</p> <p>もう一方では、ワクチン接種をいかに進めるかということですが、2種類使われているワクチンのうちのモデルナ製も、ワクチンの接種可能年齢を12歳以上に拡大する話が報道でありましたが、子供の接種については、様々な意見がありますので、基本的には集団接種というのはどうかという考えでいます。</p> <p>教育委員会でも、検討していただいた上で、報告いただいて最終判断いたしますけれども、子供そのものはワクチンに関連する判断ができないことから保護者の方が判断すると思っておりますので、集団接種ではなく個別接種で、希望があれば接種する形が望ましいのではないかと考えております。</p> <p>その点を含めて、教育委員会でもご議論をお願いしたいと考えますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>最後になりますが、4その他でございますが、先ほどお願いしていました通学路の点検について現在の状況について説明をお願いいたします。</p>
<p>清水教育支援課長</p>	<p>それでは通学路の点検について説明いたします。</p> <p>6月28日の千葉県八街市における交通事故を受けまして、教育委員会といたしましては、例年であれば、市内を江別地区、野幌地区、大麻地区の3地区に区分し、毎年、順番に1地区ごとに、学校から報告のあった危険箇所の点検を実施しております。</p> <p>今年度は大麻地区で点検を進める準備をしておりましたが、千葉県八街市での死傷事故を受けまして、3地区全てにおいて、改めて危険箇所を点検することといたしました。</p> <p>また、7月9日付けで文部科学省から、この交通事故を受けて、三つの観点で危険箇所を改めて確認してほしいという内容の通知がありました。</p> <p>1点目は、見通しのよい道路や幹線道路の抜け道になっている道路など、車の速度が上がりやすい箇所や大型車の進入が多い箇所です。</p> <p>2点目は、過去に事故に至らなくても、ヒヤリハットの事例があった箇所です。</p> <p>3点目は、保護者、見守り活動者、地域住民等から市町村への改善要請があった箇所の三つの観点を追加して危険箇所の点検をしてほしいとの要請でした。</p> <p>この追加項目につきましても、各学校に周知をいたしまして、通常でありましたら、小学校の通学路を点検すれば、市内の全ての地区が網羅されるのですが、今回は、中学校にも声を掛け、中学校におきましても気になっている箇所があれば、意見をいただいた上で点検を実施する予定であります。</p>
<p>三好市長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>佐藤学校教育支援室長</p>	<p>補足してよろしいでしょうか。 この通学路安全プログラムに基づく合同点検は、警察、各道路管理者、江別市生活環境部市民生活課、江別市教育委員会、学校の5者で一斉に点検を行います。</p>
<p>三好市長</p>	<p>分かりました。よろしくお願いいたします。</p> <p>通常は、3地区を毎年1地区ごとやっている点検を、今年は文部科学省の通知も受け、全地区で一斉に安全点検を実施するということですが、危険箇所やおかしいところがあれば、改善に向けて検討していただきたいと思っております。</p> <p>ただいまの説明に関連いたしまして、何かご質問等ございませんでしょうか。 よろしいでしょうか。(了)</p> <p>その他、全体を通して何かございますか。 よろしいでしょうか。(了)</p> <p>それでは、以上で予定していた協議事項は終了とさせていただきます。 次回の日程ですが、緊急で協議を要する事案がない限り、10月から11月頃の開催を</p>

予定しておりますので、事務局を通じてご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。
熱心なご議論をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。